

1. 施設内感染を起こす微生物

岡崎充宏 (杏林大学医学部附属病院 検査部)

各種の感染症を起こす微生物の名前に対しては **Infection Control Team (ICT)** に関するスタッフである、臨床医、看護師、薬剤師、事務、栄養士、検査技師（微生物検査専門検査技師を除く）に限らず、すぐにはピンとこなくて苦手な方が多いようです。しかしながら、施設内感染対策等を行っていく過程において、覚えておかなければならない代表的な微生物があります。また、それらの抗菌薬や消毒薬に対する感受性、病原性、施設内環境における生息場所などの知識も必要となる場合があります。

今回、微生物専門以外の ICT スタッフに向けた内容でお話を進めていくということで、最初に微生物名からではなく、感染経路から見た微生物は何か？から始めようと思います。というのも、それぞれの感染経路に関わる微生物は、ひとつのグループとしてまとめることが可能です。例えば、空気感染予防策を講じることにより、結核菌のほかにも水痘や麻疹ウイルスに対しても同様な対策を実施することが可能となります。従って、あまりにも詳細な微生物名まで覚えることは必要ありませんが、それでもある程度の代表的な微生物名を知っていただき、日常的に監視する必要があることを理解していただければと思います。そこで、本抄録では下記のキーワードを提示させていただき、学会当日の本セミナーにおいては、感染経路—微生物名—対策のポイントの三つのキーワードの繋がりが整理されるように解説できればと思います。

1. 感染経路

① 空気感染, ② 飛沫感染, ③ 接触感染, ④ その他 (経口感染や動物由来感染)

2. 感染経路別に関連する代表的な微生物 (下記の数字は上記の数字に該当)

- ① 結核菌, 水痘および麻疹ウイルス
- ② マイコプラズマ, インフルエンザやムンプスなどのウイルス, ヘモフィルスインフルエンザ桿菌, ジフテリア菌, 百日咳菌, A 群溶血性連鎖球菌 など
- ③ 抗菌薬に多剤耐性を示す菌 [MRSA, MDRP, バンコマイシン耐性腸球菌; (VRE), ESBLs 産生グラム陰性桿菌], クロストリジウムディフィシル, ノロやロタウイルス, アデノウイルス, 疥癬など

3. 感染管理を行うにあたり, 上記の微生物の重要な理由のポイント

- ① 微生物の飛散の程度
- ② 病原性 (どんな感染症の疾患に関与するのか)
- ③ 各種の抗菌薬に対する耐性化

- ④ 消毒薬に対する感受性
- ⑤ ヒトおよび施設内における生息場所

4. 感染経路予防策

感染経路別に応じた対策を講じることは、迅速かつ効率的に感染症の発症や流行を防止することが可能である。